



2019年3月期 決算説明会資料

トピー工業株式会社

証券コード 7231



2018年度（2019年3月期） 通期決算について

2018年度 決算概要



売上高は前年度比＋557億円増収。営業利益は△5億円の減益。経常利益は＋14億円の増益。親会社株主に帰属する当期純利益は＋16億円の増益。

(単位：億円)

	2017年度	2018年度	前期比	
			増減	増減率
売上高	2,305	2,862	+557	+24.2%
営業利益 (営業利益率)	80 (3.5%)	75 (2.6%)	△5 (△0.9ポイント)	△6.2%
経常利益	80	94	+14	+16.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	55	71	+16	+29.3%
年間配当 (円)	80	90	+10	—

2018年度の経営環境（2017年度対比）

○－×：環境・影響の評価

◆外部環境

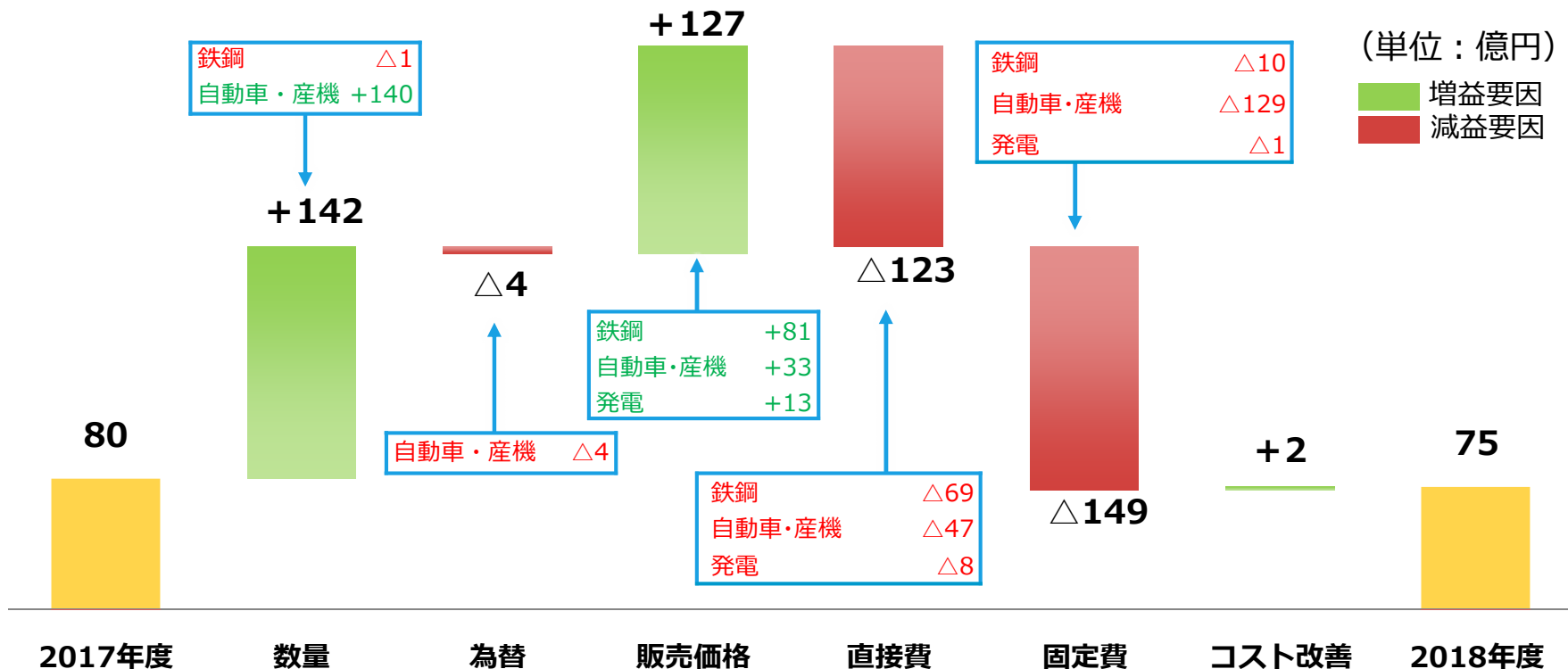
海外経済	－	米国：緩やかな景気の拡大が進展
	－	中国：景気が緩やかに減速
	－	東南アジア：景気持ち直しの動きが継続
日本経済	－	雇用情勢の改善や設備投資の増加により緩やかな回復が続く

◆当社グループ

鉄鋼事業	－	鋼材需要が底堅く推移
	○	メタルスプレッドは改善
	×	副資材価格、電力料金等が上昇
自動車・産業機械部品事業	×	自動車用ホイール：米国の自動車生産（セダン系）は減少
	○	履帯・履板：海外の建設機械需要がさらに増加
	○	鉱山機械用ホイール：鉱山機械需要がさらに増加
発電事業	○	販売価格（電力料金）は上昇

営業利益増減要因（対2017年度実績）

建設機械用足回り部品の販売数量増加に加え、新規連結効果があったが、鉄鋼事業の機会損失や副資材等のコストアップ影響等により、△5億円の減益。



期間為替	2017年度	2018年度
米ドル	110.7円	111.1円
中国元	16.8円	16.5円

コスト改善	直接費 +2
	固定費 0

2018年度 セグメント別業績

鉄鋼事業は+3億円の増益。自動車・産業機械部品事業は△6億円減益。発電事業は+3億円増益。

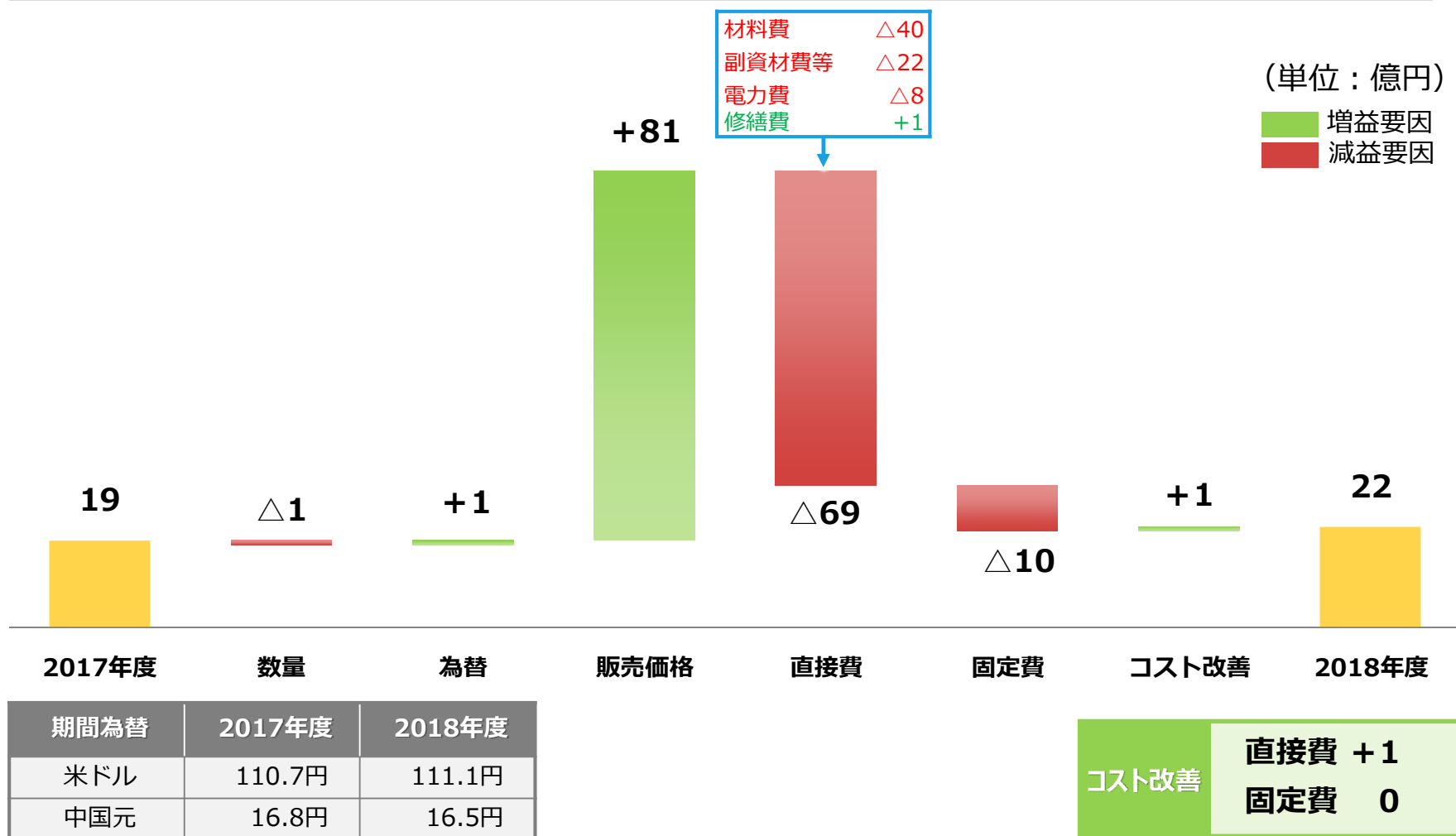
(単位：億円)

	2017年度		2018年度		前期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鉄鋼事業	715	19	804	22	+89	+3
自動車・産業 機械部品事業	1,428	84	1,882	78	+454	△6
発電事業	96	9	106	12	+10	+3
その他	66	15	70	16	+4	+1
消去	—	△47	—	△53	—	△6
連結計	2,305	80	2,862	75	+557	△5

鉄鋼事業 営業利益増減要因（対2017年度実績）



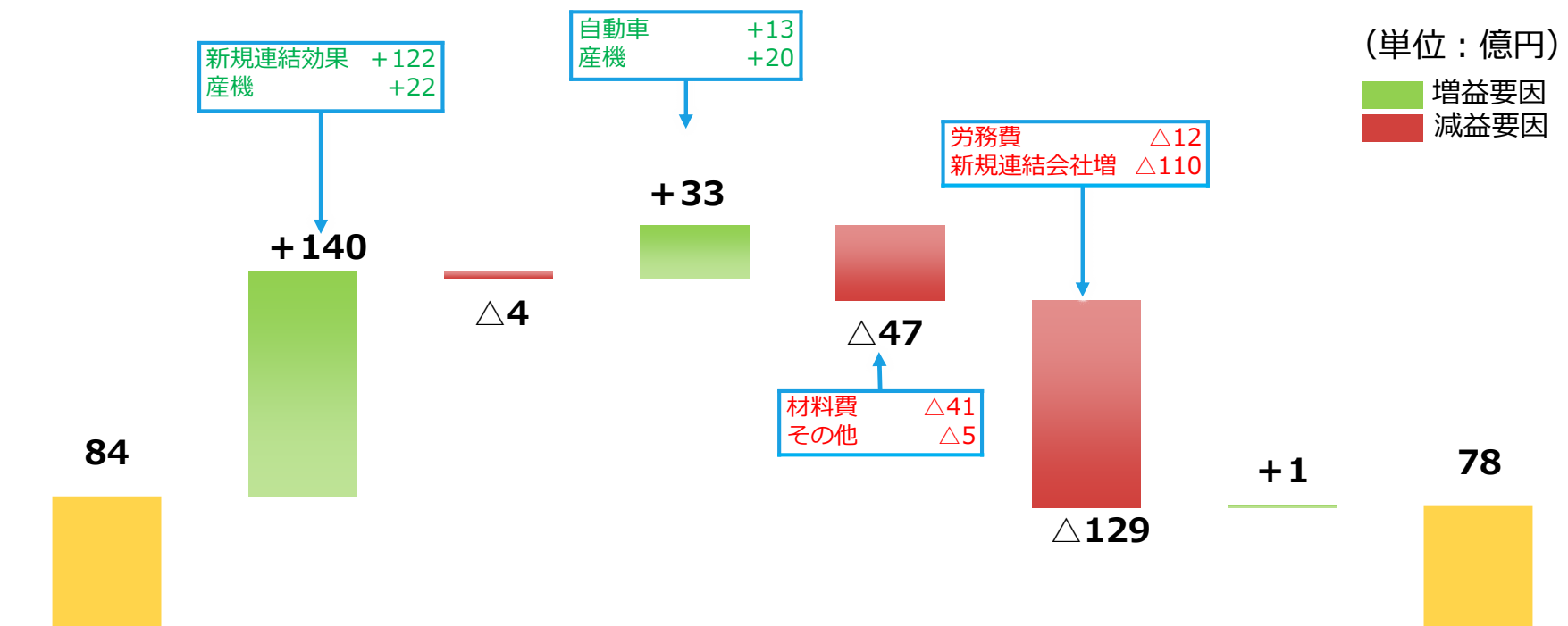
メタルスプレッドの改善とともに、製鋼設備トラブル復旧後の挽回に努め、+3億円の増益。



自動車・産業機械部品事業 営業利益増減要因（対2017年度実績）



建設機械用足回り部品、鉱山機械用ホイールの数量増および新規連結効果があったが、材料費の上昇、M&Aに係る一時費用の発生等があり、△6億円の減益。

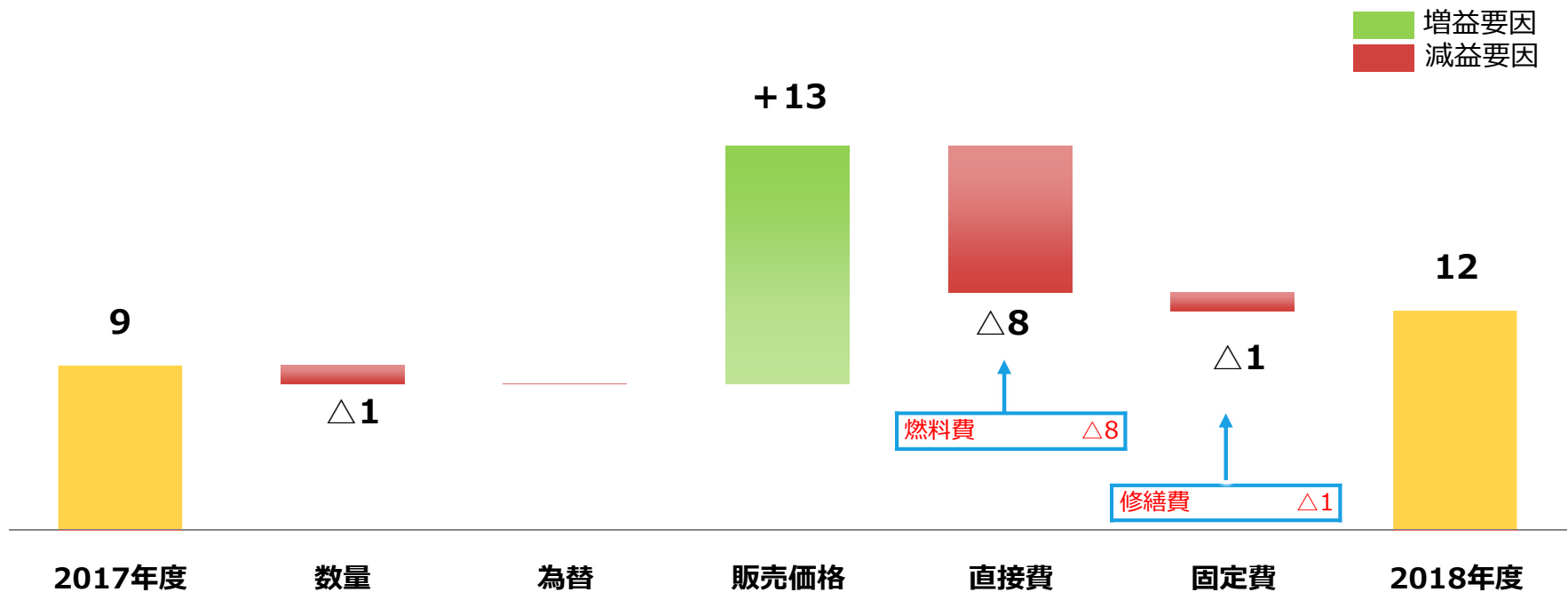


2017年度	数量	為替	販売価格	直接費	固定費	コスト改善	2018年度
期間為替	2017年度	2018年度					
米ドル	110.7円	111.1円				直接費 +1	
中国元	16.8円	16.5円				固定費 0	

発電事業 営業利益増減要因（対2017年度実績）

販売価格の上昇によりスプレッドが拡大し+3億円の増益。

（単位：億円）



期間為替	2017年度	2018年度
米ドル	110.7円	111.1円
中国元	16.8円	16.5円

2018年度 地域別売上高（グローバル）



旭テックグループの新規連結等により、海外売上比率は前年度比3.4ポイント増加の28.7%、自動車・産業機械部品事業においては、**海外売上比率41.0%**

（単位：億円）

	日本	米国	中国	その他	合計
鉄鋼事業	757 (26.4%)	12 (0.4%)	1 (0.1%)	34 (1.2%)	804 (28.1%)
自動車・産業 機械部品事業	1,110 (38.8%)	314 (10.9%)	178 (6.2%)	280 (9.8%)	1,882 (65.7%)
発電事業	106 (3.7%)	—	—	—	106 (3.7%)
その他	69 (2.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (0.1%)	70 (2.5%)
合 計	2,042 (71.3%)	326 (11.3%)	179 (6.3%)	315 (11.1%)	2,862 (100.0%)

海外比率計：28.7%

<参考> 2017年度

合 計	1,724 (74.8%)	235 (10.2%)	124 (5.4%)	222 (9.7%)	2,305 (100.0%)
-----	------------------	----------------	---------------	---------------	-------------------

海外比率計：25.3%



2019年度（2020年3月期） 通期業績予想について

2019年度の経営環境想定（2018年度との比較）

○－×：環境・影響の評価

◆外部環境

海外経済	－	米国：景気は着実に回復
	×	中国：景気がさらに減速
	－	東南アジア：景気は緩やかに回復
日本経済	－	雇用・所得環境の改善、設備投資の増加により景気は緩やかに回復

◆当社グループ

鉄鋼事業	－	鋼材需要が底堅く推移
	○	メタルスプレッドが改善
	×	副資材価格が上昇
自動車・産業機械部品事業	－	自動車用ホイール：日本、米国の乗用車生産は横ばい
	×	履板・履帯：海外の建設機械需要が減少
	－	鉱山機械用ホイール：鉱山機械需要は前年度並み
発電事業	×	市況の軟化傾向により販売価格が低下

2019年度 通期業績予想

鉄鋼事業の販売数量増加等により、前年度比で増収増益を予想。

(単位：億円)

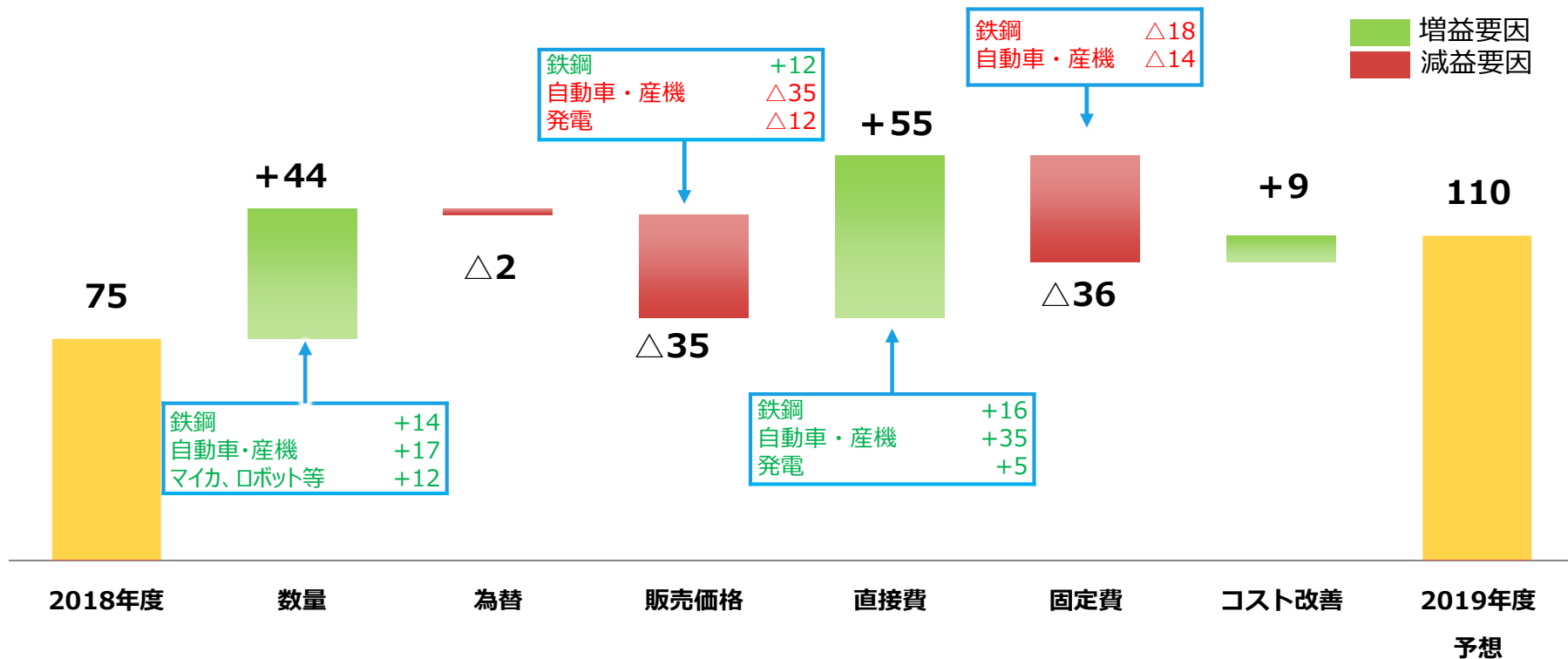
	2018年度 実績	2019年度 予想	前年度比	
			増減	増減率
売上高	2,862	3,070	+208	+7.3%
営業利益 (営業利益率)	75 (2.6%)	110 (3.6%)	+35 (+1.0ポイント)	+46.6%
経常利益	94	114	+20	+21.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	71	80	+9	+12.5%
年間配当 (円)	90	90	±0	—

営業利益増減要因（対2018年度）

鉄鋼事業の販売数量増加、メタルスプレッドの拡大等により、前年度比増益を予想。

（単位：億円）

■ 増益要因
■ 減益要因



期間為替	2018年度	2019年度予想
米ドル	111.1円	110.0円
中国元	16.5円	16.0円

コスト改善	直接費	+9
	固定費	0

2019年度 セグメント別業績予想

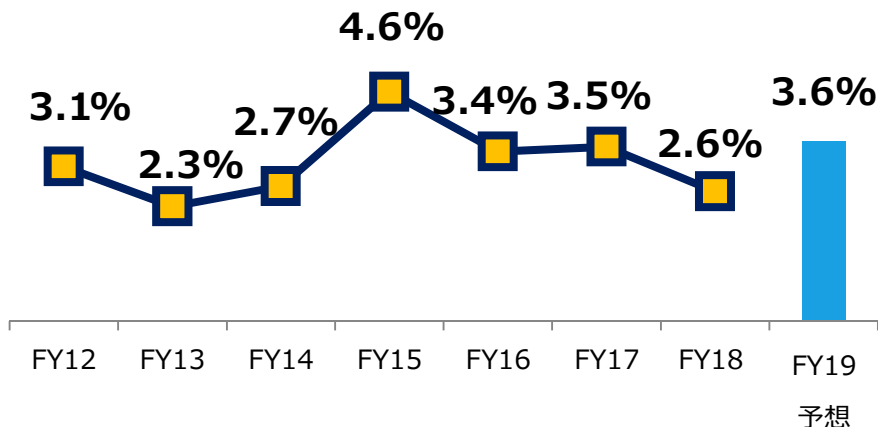
鉄鋼事業は+26億円の増益。自動車・産業機械部品事業は+9億円の増益。発電事業は△5億円減益。

(単位：億円)

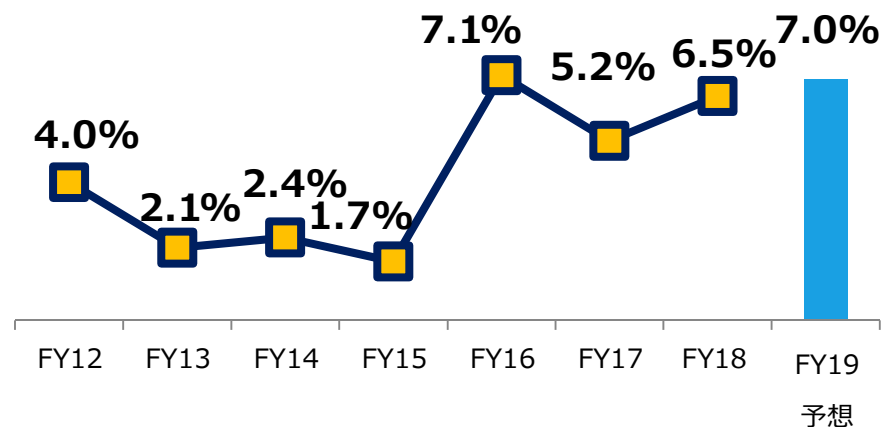
	2018年度		2019年度		前期比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
鉄鋼事業	804	22	910	48	+106	+26
自動車・産業 機械部品事業	1,882	78	1,970	87	+88	+9
発電事業	106	12	97	7	△9	△5
その他	70	16	93	21	+23	+5
消去	—	△53	—	△53	—	±0
連結計	2,862	75	3,070	110	+208	+35

数値目標推移

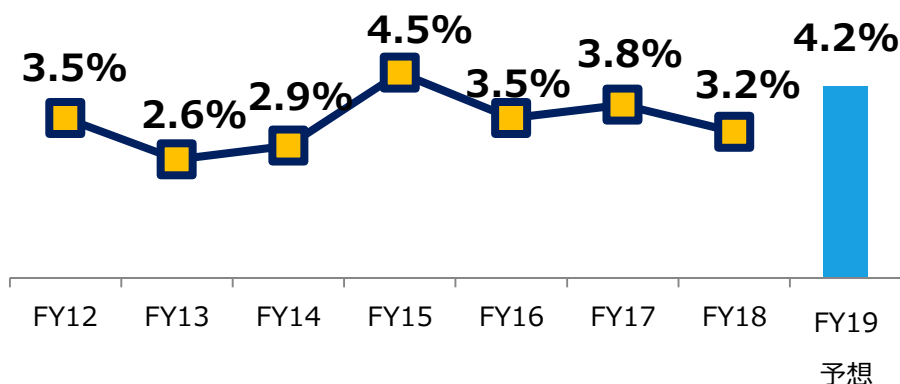
売上高営業利益率



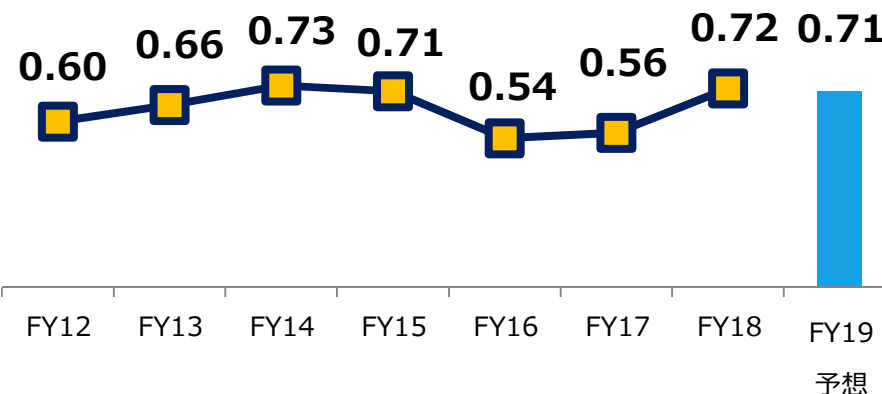
自己資本利益率 (ROE)

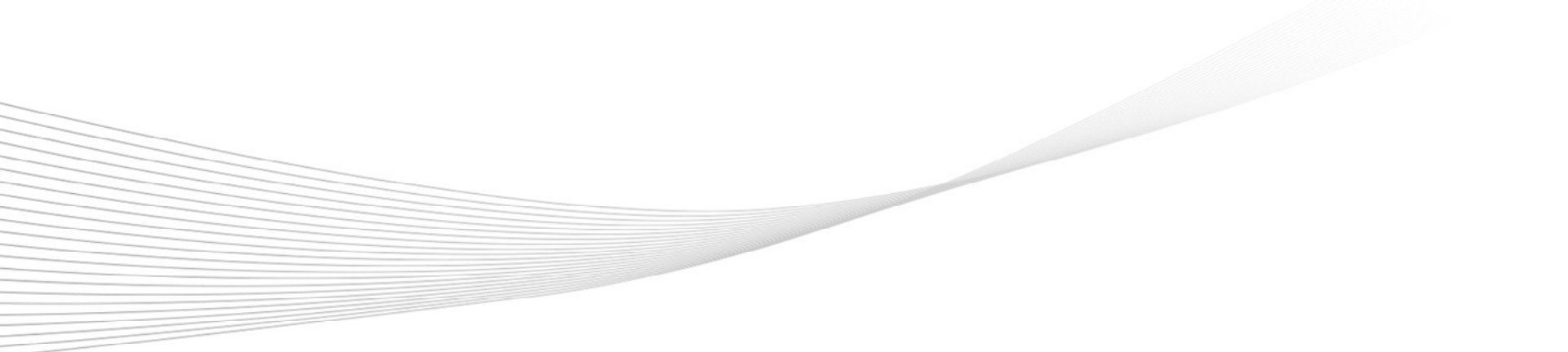


総資産事業利益率 (ROA)



D/Eレシオ





One-piece Cycle

流れるように美しい、技術と品質。

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
また、本資料に記載された将来の予測等は、資料作成時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。
従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。
本資料利用の結果生じたいかなる損害につきましても、当社は一切責任を負いません。